

1. 事業全体の概要【施策の方向性】

- I. 森林資源を無駄なくかつ効率的に活用する「カスケード計画」を軸にし、循環型林業の再構築を行うことで林業の成長産業化を目指す。
- II. 林業の成長産業化に伴い、新たな雇用を創出することで人口増加を目指すと同時に、町内の地域経済循環率向上を目指す。
- III. 林業の町にふさわしい、子育て支援・人材育成を行うことで、将来における林業業界の担い手を確保していくことを目指す。

2. 地域の実態

●林齢構成の不均衡

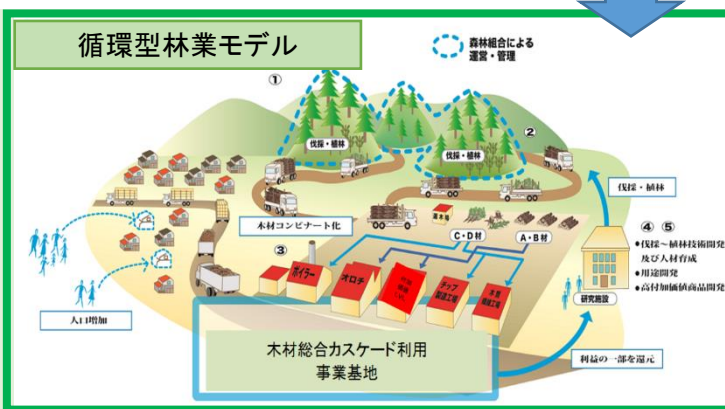
→8齢級から11齢級が約60%を占めており皆伐再造林による林齢平準化が必要。

●民間林の不在村地主問題

→集約施業を行う上で大きな妨げになっており、施業同意が取れず集約施業ができない状況が生じている。

●林業業界における恒常的な人手不足

→今後の大手企業進出に伴い、多くの木材搬出が予想される中、人材不足のため新たなビジネスモデルの実施が困難な状況が予想される。



3. 重点プロジェクトの概要

1. 『使いきる』木材活用事業

①不在村地主等山林集約化事業

不在村地主問題の解消に向け、森林組合と連携を図りながら、企業への売買斡旋等集約化を図り、適切な森林管理を行うとともに、集約化施業を推進することで、未整備林をなくし、安定・継続的な事業確保を目指していく。

②ICT技術を活用した中央中国山地地域モデル循環型林業の確立事業

航空レーザー計測、山林3DスキャンなどのICT技術を活用し、正確な立木の情報を把握することで、森林資源量を正確に把握し、循環型林業を行う上での基礎データを把握し、今後実施する事業展開に備えることを目的とする。

③FSC材・FSC製品流通拡大事業

県境を跨いだ近隣市町村・企業と連携を図りながら、FSC認証材の流通量を増やすことで、林業業界の収益増加を目指して行く。また、既製製品についてもグローバルスタンダードとなりつつあるFSC認証材を使用することにより、より競争力の高い製品として市場に打って出ることを目指す。

④森林カスケード新マテリアル開発事業

木を『使いきる』という点において、これまで産業廃棄物として処理していたパークを用いたバイオマス燃料への活用や、大建工業㈱と連携したDWファイバー製造技術を用いた新商品開発を行っていくことで、無駄なく最後まで資源を使用し、地域経済へ落とし込んでいくことを目指す。

⑤木材公共施設等整備事業

町内に建設予定のコミュニティーセンターの建設、及び木質バイオマス熱変換を活用した木質農業用ハウス等の建設にあたり、町産材100%FSC認証LVL材を活用することで、地域経済循環率を高めていくことを目指す。

2. 日南町版林業担い手育成事業

⑥林業アカデミー整備事業

今後町が実施する地域循環型林業モデルの各種事業実施にあたり、人材確保は必須である。とりわけ高性能林業機械の活用、それに伴う特別教育の資格取得は必須であり、大建工業㈱を始めとする加工業者が求める即戦力の育成も関連企業・大学等専門機関とタイアップしながら、中央中国山地地域の求める人材を育成していく。

⑦200年の森等木育整備事業

林業の町ならではの教育を行うことを目的に、「木育」を積極的に行っていく。具体的には樹齢200年のスギ林の一部をフィールドとしたカリキュラムを大学と連携し構築。子供から大人まで木の魅力を学べる場を創出。とりわけ子供には木や森林それに関わる仕事の大切さという点について重点的に教育していくことで「林業が魅力ある仕事」と理解してもらえる事を目指して行く。

4. 地域の関係者で実現する将来像

- 行政・関係企業が一体となって、循環型林業の再構築を行うことで林業を「稼げる職業」「魅力ある仕事」に仕立て上げ、多くの人を呼び込み、経済波及効果をもたらし、過疎からの脱却を目指して行く。
- 県域を超えた取組とすることで、単一市町村では困難なFSC認証材の販路拡大を進めていき、他の国産材との競争力を向上していく。